

令和 8 年度 多摩市在宅医療・介護連携推進協議会のテーマについて（案）

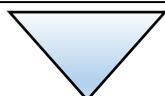
経過) 平成 28 年度から「8つの事業項目」について「PDCA サイクルに沿った取組」を行っている。令和 6 年度からは、4つの場面を意識した PDCA サイクルの考え方と展開例にならない、在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）を意識した取組で場面ごとの現状分析・課題抽出・目標設定等を行うこととした。令和 6 年度は③急変時の対応を主に実施した。

長期目標 「在宅療養の現状と課題を知り、安心して在宅療養を継続できる」

(※目安：第 9 期多摩市高齢者保健福祉計画・介護事業計画令和 6 年度～8 年度中)

在宅療養に係る課題アンケートまとめからの現状と課題

項目	現状	対策
① 日常の療養支援 (令和 7 年度取組中)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養のイメージがない。 ・包括支援センター・在宅療養支援窓口の認知度がまだ低い。 ・介護保険の申請に時間がかかる。 ・歯科・薬剤師の機能をうまく利用できていない。 	事例でサービスの理解
② 入退院支援 (令和 7 年度取組中)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療から在宅への連携が不足している。 ・急に退院したり、病院が遠方であったりし、調整する時間がない。 ・病院の機能別の役割が理解されていない。 ・入院で家族の問題（経済的・キーパーソン不在など）が顕在化する。 	連携の強化 病院の機能の理解 (医療入院・レスパイト入院・リハビリ入院)
③ 急変時の対応 (令和 6 年度実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・急変時の対応のイメージが家族・本人ともにない。 ・気持ちが変わることが多いが、ACP などで日頃確認することは必要。 ・延命治療を望まなくても救急車を呼んでしまい心肺蘇生がされてしまうことがある。 	救急車の要請について【現状と課題】 ①救急要請の件数の増加あり ②ACP の準備 ③救急キットの活用について PR が必要
④看取り	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で看取りのイメージがない。 ・自宅でなくなるのは怖い。 ・家族間での意思統一ができない。 ・介護職のマンパワー不足など 	看取りのイメージ化 専門職の関わりがあるとよい



令和 8 年度：日常の療養支援 (例：薬の管理・口腔訪問歯科など)